

彙報

教育研究會例會

十一月二十二日(土)午後二時心理學第一實驗室に於て開く。

三高教授佐藤幸治氏が『アメリカ心理學の側面觀』と題して研究發表をされ、先づ現代アメリカ心理學の重要な傾向である Psychology for science & Psychology for society とも云ふべき

二つの流れの系譜を Wundt 及び W. James より現代に到る迄の心理學の發展の中に解明せられた。次いでメンタルテストと前大戦との關係、今次大戦の戦前と戦後に於けるアメリカ心理學の動きを説明され、之を概觀するに現代アメリカ心理學に於てはその研究が非常に分化してゐる反面或る一つの研究對象に向つてあらゆる方面よりする総合的な研究が重んじられてゐること、即ち分化に對する反省としての綜合がよく自覺されて居り全體としては順當なる發展に向つて確實な歩みを續けてゐると云ふことが出来る」と論ぜられた。そして更にアメリカの教育心理に於ける最近の傾向である Evaluation 運動に關し、この運動に於てはテスト或はメジャーメントに於ける最化に對する反省として Scale Analysis の考へ方の重視が見られ個々の生徒の具體的な把握の仕方に關する研究がなされて居り、その方法として (一) 生徒の life history (autobiography 等) を書かせると (二) 教育者が behaviour observation をなし anecdotal

records 或は behaviour description を書くこと (三) 個々の生徒に對して interviews 或は questionnaires を行ふこと (四) census graph の考へ方により生徒と環境との連關を具體的につかむこと (五) cumulative records をとること等がテストやメジャーメントと併せ用ひられて居ることを説き、現在我が國に於て行はれてゐるテストやメジャーメントの示す結果のもつ意味及びその教育的な用ひ方について論ぜられた。

發表後會員の質問があり活潑な討論を行ひ午後五時散會す。

(蜂屋 慶)

前 號 目 次

中觀哲學の根本的立場：文學士 長 尾 雅 人

社會法の性格(完)……法學士 磯 村 哲

—近代民法と社會法—

「學問」の語義について：文學士 木 村 俊 次